
鉛直落下<夢のまた夢>

幻想花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鉛直落下>夢のまた夢<

【Nコード】

N9688G

【作者名】

幻想花

【あらすじ】

世界はあの日崩壊した。今ある世界は昔のままなのか、新しいものなのか。世界は求める”救済者”、そして”手繰者”（たぐりて）を。ひょんなことから、取り柄もなく普遍的な中学二年生の難波祐樹は世界のいざこざに巻き込まれてしまった。泡沫人であったはずの彼はどうなってしまうのか。

CODE 0：魔術師

上から落ちてくる透明の粒は、淀んだ雲をすり抜けたわずかながらの光を通し、僕の目にその存在を示す。

粒は小さいのから大きい。その一つ一つが鉛直下向きに 9.8 m/s^2 という加速度で加速しながら、降り注ぐ。

その様はさながら、僕の晴れそうもない曇りきった心そのもの。

あの日、楽しかった日常と、世界そのものが音も立てずに、突如として崩壊した。

世界は壊れても異常をきたす異分子を排除し、クリアな、新しい世界として鼓動を再び刻み始めた。

*

*

*

そこら辺にいる平凡な魔術師。

それこそが僕の周りからの評価。大した才能や、大魔術師の家系でも彼らの血が通ってる訳でもなく、普通の一般家庭に生を受け、近所のガキ共とたわむれ、腐れ縁の幼馴染とバ力をやっては大笑い。

本当に平凡でどこにでもいるような尻の青いガキだ。

ま、僕のこととはひとまず置いておき、今日は僕らが通う”だいにちゅうがっこう第二中学校”の始業式の日であり、いまは親友の家の前でそいつを待っている訳だが、いかんせん奴は遅いのだ。あすまみそぎ吾妻楔

食事に着替え、走りに起床。ましてやトイレさえも遅いと来た。だが女に関しては目ざとく、誰よりも早く行動するので性質が悪い。

去年から愛用している細めの腕時計に目を落とすと8時30分である。

額から滝の流れの如く汗が流れ出す。この滝というのは比喻ではない。本気と書いてマジだ。

僕は慌ててチャイムを鳴らす。

焦る僕の心と対照的に機械的な間延びした音が、外に立っているこちらにも聞こえてくる。ああ早くしてくれ。

こんな時ほど時間が遅く感じることはない。今か今かと全身をめぐる血がにわかに温度上昇を続けている。

「あら祐君いらっしやい。」

「涼香さんおはようございます。智裕、起きてますか？」

玄関から姿をあらわしたのは我が親友、大島智裕ではなくその母涼香さんである。

日の光に映える艶やかな黒髪をした女性。このような人を大和撫子と呼ぶのだろう。

美しい立ち姿を見てか、なりっぱなしになっていた心臓も幾分か収まってきたようだが、次の瞬間には溢れかえらんばかりの怒りとともに、心臓も早鐘を打ち鳴らすのだ。

「智ちゃんなら大分前に出てったわよ。」

一瞬時間が止まった。しかし時計は時を刻み、只今35分。完璧に遅刻である。

僕はとりあえず駆けだした。

智裕への怒りを抱えて。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9688g/>

鉛直落下<夢のまた夢>

2011年1月6日02時33分発行